

令和 4 年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

市民バスの運行及び日向市地域公共交通計画の作成については、地域公共交通確保維持改善事業にて国庫補助を受けおり、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第 3 条第 5 項の規定により、協議会（公共交通会議）は、補助対象事業について自己評価（一次評価）を行うこととなっております。

1 地域公共交通調査等事業・事業評価

②事業実施の適切性

- A：事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された
- B：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった
- C：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった

2 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価表

④事業実施の適切性の判定基準

- A：事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された
- B：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった
- C：事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった

⑤目標・効果達成状況の判定基準（年間利用者数）

- A：達成された
- B：達成率が 60% を上回った
- C：達成率が 60% を下回った

<参考>

◇日向市市民バス利用状況（令和 3 年 10 月～令和 4 年 9 月）

- ・利用者数：65,218 人（前年比 -404 人）
（ぷらっとバス、南部ぷらっとバス、乗合バスとうごう、乗合バスなんぶ合計）
- ・定期路線型
ぷらっとバス、南部ぷらっとバス 61,090 人（前年比 -860 人）
- ・予約区域型
乗合バスとうごう、乗合バスなんぶ 4,128 人（前年比 +456 人）
- ※乗合タクシーほそしま（地域公共交通確保維持改善事業対象外）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 5年 1月 27日

協議会名:日向市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
○調査事業の主な内容 ・地域の移動実態、公共交通に対するニーズ調査(アンケート調査3,000人、回収率36%、OD調査等) ・地域公共交通の課題の分析や整理 ・実現に向けた施策の検討及び地域公共交通計画(案)の取りまとめ ・地域公共交通会議の開催	A	事業が計画どおり適切に実施されている。	日向市地域公共交通計画の基本方針は以下のとおり ・公共交通の相互連携及び機能分担による誰もが利用しやすい交通環境の提供 ・将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成 ・新たな公共交通サービスの導入による公共交通不便地域への対応 ・観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携 ・運行情報の一元化による利便性向上及び利用を促進する取組みの実施

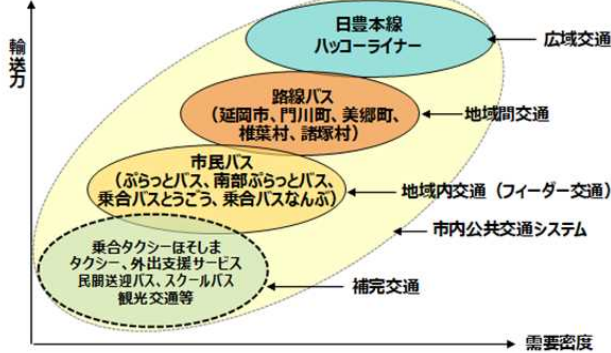
調査事業の概要

○日向市の地域公共交通の概要

日向市の公共交通は、南北を結ぶ鉄道(JR九州日豊本線)や北の延岡地域、西の日向入郷地域を結ぶ路線バス(宮崎交通)を幹線とし、これらの幹線を補完する路線として、市が自家用有償旅客運送の形で、市街地エリアに8路線、南部地域1路線の定時定路線型の市民バス、東郷・平岩・美々津・細島など、人口が少ない地域を運行する予約型乗合バス等9路線にて形成されている。

多様な交通モード、事業者にて日向市の公共交通が形成されているが、自家用車依存の浸透、人口減少やコロナ禍による利用者の減少により、従来そのままでは既存交通の維持が困難な状況となっている。

【日向市の交通モード】



○調査事業の主な内容

- ・地域の移動実態、公共交通に対するニーズ調査
市民アンケート調査、公共交通利用者調査、事業者アンケート調査等
- ・地域公共交通の課題の分析や整理
- ・実現に向けた施策の検討及び地域公共交通計画(案)の取りまとめ
- ・地域公共交通会議の開催
 - ①R4年5月：計画作成の提案、②R4年8月：調査概要、スケジュール
 - ③R4年11月：アンケート調査結果説明、④R5年1月：計画素案の協議
 - ⑤R5年3月(予定)：計画原案の協議

基礎データ

合併状況：平成18年2月に東郷町を編入合併
 人口：58,246人(令和5年1月現在)
 面積：336.89km² 過疎地域等指定：一部過疎(旧東郷町地域)
 高齢化率：33.5%(令和3年10月現在)
 補助対象の系統数：22系統(確保維持事業のみ)
 自治体負担額：R2 19,068千円、R3 23,025千円、R4 28,833千円
 協議会開催数：協議会5回(R5.3開催予定含む)



調査前の地域交通状況(Before)

主な状況

☆自家用車移動が主な交通手段

日常の移動手段→「車を運転69.4%」「家族等送迎7.7%」→ 合計77.1%

公共交通利用者は3.7% → 車で移動する市民がほとんどで公共交通利用者は少ない

☆公共交通への期待

利用者負担や財政負担が増加しても公共交通サービスの拡充をすべき 44.0%

同程度の負担の中で、効率化等に取り組み可能な限り公共交通の維持 30.3% 合計 74.3%

→ 自家用車主体の移動実態であるものの市民は公共交通の拡充、維持を望んでいる

主な課題

☆高齢者等の移動手段の確保

運転に関する考え方 → 運転は苦にならない82.6%

不安なためできれば控えたいが他に交通手段がない 8.2%

市内高齢化率 33.5% → 高齢化の進展による高齢者の移動手段の確保が必要

☆交通不便地域・時間の解消

市内のほぼ全域に公共交通は網羅。ただし、週1、2日の運行地区や1日の便数が限られている路線もあり、外出することをあきらめている意見もあった。

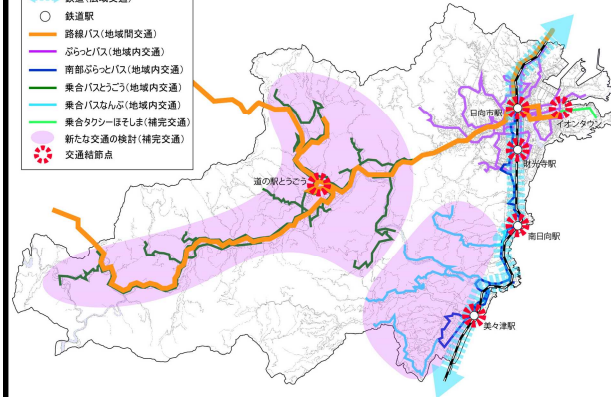
移動手段がない時(総数92) → 外出するのをあきらめる 16.3%

運転ができなくなる市民が増加することが予想されるため、市民の外出機会の創出が必要

調査後の地域交通計画(After)

— 基本方針 —

- 凡例
- 鉄道(広域交通)
 - 鉄道駅
 - 路線バス(地域間交通)
 - ぶらっとバス(地域内交通)
 - 南部ぶらっとバス(地域内交通)
 - 乗合バス(なんぶ)(地域内交通)
 - 乗合バス(どうこう)(地域内交通)
 - 乗合タクシーほそしま(補完交通)
 - ★ 新たな交通の検討(補完交通)
 - 交通結節点



公共交通の相互連携及び機能分担による誰もが利用しやすい交通環境の提供

将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成

新たな公共交通サービスの導入による公共交通不便地域への対応

観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携

運行情報の一元化による利便性向上及び利用を促進する取組みの実施

将来にわたり市民の暮らしをつなぎ、移動を支える公共交通ネットワークの実現

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月27日

協議会名: 日向市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日向市	東1コース (イオンタウン日向・櫛の山)	<p>・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った。</p> <p>・出前教室や、スマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。</p> <p>・南部ぶらっとバスについて、市民の要望により経路変更の試験運行をおこない、R4.10.1からの本格運行につなげた。</p> <p>・車載モニターにて感染防止啓発内容を放映し、空気浄化装置や消毒液の設置、座席の消毒、換気を行い、安心して利用できる環境づくりに努めた。</p>	A	計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:9,428人 実績:8,725人	<p>系統によっては、目標値を達成しているが、全体での目標達成率は93.1%、前年度比は95.3%にとどまった。</p> <p>長期間の新型コロナウイルス感染症の影響による外出抑制や、就労形態の変化などが要因と推測される。</p> <p>・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。</p> <p>・運転免許証の自主返納者に対して市民バス利用を促す。</p> <p>・利用促進を図るために、ダイヤや路線の見直しを検討する。</p>
日向市	東2コース1(イオンタウン日向・水ヶ浦公園・幡浦)		A	計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:6,170人 実績:6,584人	
	東2コース2(イオンタウン日向・幡浦)						
日向市	西1コース1 (比良町・小原)		A	計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:3,264人 実績:2,858人	
	西1コース1 (比良町・奥野)						
日向市	西2コース (本谷・新財市)		A	計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:5,046人 実績:3,700人	
日向市	南1コース (比良町・向洋台)		A	計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:5,984人 実績:5,991人	
日向市	南2コース (長江団地入口・往還)		A	計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:6,154人 実績:5,996人	
日向市	北1コース (花ヶ丘・日向台・亀崎)		A	計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:3,432人 実績:3,142人	
日向市	北2コース (大王谷・梶木)		A	計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:2,666人 実績:2,257人	
日向市	美々津日向市駅線コース1 美々津日向市駅線コース2 美々津日向市駅線コース3	A	計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:21,238人 実績:21,837人		

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日向市	田野羽坂線	・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った。	A 計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:392人 実績:417人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。 ・運転免許証の自主返納者に対して市民バス利用を促す。 ・利用促進を図るために、タイヤや路線の見直しを検討する。
日向市	仲深坪谷越表線	・出前教室や、スマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。	A 計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:458人 実績:583人	
日向市	福瀬小野田線	・まちづくり協議会と連携し、地区別時刻表の全戸配布を行った	A 計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:1,200人 実績:1,326人	
日向市	仲深坪谷線	・車両を更新し、安全性の向上と利用機運の醸成を図った。	A 計画通り適切に運行を行った。	B	年間利用者数 目標:496人 実績:484人	
日向市	鶴野内迫野内八重原線	・空気浄化装置を設置し、安心して利用できる環境づくりに務めた。	A 計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:834人 実績:921人	
日向市	寺迫庭田線	・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った。	A 計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:106人 実績:127人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。 ・運転免許証の自主返納者に対して市民バス利用を促す。 ・利用促進を図るために、タイヤや路線の見直しを検討する。
日向市	飯谷田の原線	・出前教室や、スマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。	A 計画通り適切に運行を行った。	C	年間利用者数 目標:228人 実績:70人	
日向市	鵜毛靱木線	・空気浄化装置を設置し、安心して使用できる環境づくりに努めた。	A 計画通り適切に運行を行った。	A	年間利用者数 目標:104人 実績:222人	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月27日

協議会名:	日向市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>日向市管内では、路線バスが、イオンタウン日向を起点として、東郷地域や近隣市町村とを結び、鉄道が、市内を南北に走り、近隣市町村間を結んでいる。</p> <p>本市では、これらの地域間幹線のフィーダー系統として、市街地を循環する「ぷらっとバス」、市街地と美々津地区を連絡する「南部ぷらっとバス」、市の南部地域(平岩地区、美々津地区)、東郷地域及び細島地区においてデマンド方式の乗合バス・タクシーを運行しており、既存公共交通機関の補完的役割や公共交通空白地域における高齢者等の日常的な移動手段を確保している。</p> <p>しかしながら、人口減少に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、人流は抑制され公共交通利用者数は低迷している。</p> <p>今後も市民の日常生活における移動手段を確保していくため、当該補助事業を活用し、幹線系統と市内の支線のネットワークが連携した効率的な運行を行い、買い物弱者対策、外出促進等で地域活性化を図っていく。</p>

日向市地域公共交通会議 (宮崎県日向市)

事業名: 令和4年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

概要



【名称】
左からぶらっとバス(2台)、南部ぶらっとバス、乗合バスなんぶ、乗合バスとうごう

【運行主体】
日向市 (日向交通協同組合、宮交タクシー(株)に運行を業務委託)

- ・平成21年度より、市街地においては路線定期型、郊外においては市西部で「乗合バスとうごう」、市南部で「乗合バスなんぶ」の運行を行い、路線バス(宮崎交通)や鉄道(日豊本線)と乗り継ぎしやすい支線交通の役割を果たしている。
- ・日向市市民バスは、公共交通空白地域における高齢者等の日常生活の交通手段としての役割も有しており、市民の生活に必要な不可欠なものとなっている。
- ・平成28年4月より市街地と美々津地区を連絡する路線バスの廃止に伴い、代替機能として南部ぶらっとバスを運行している。
- ・平成31年4月よりぶらっとバス、南部ぶらっとバスについては、日祝運行を開始している。
- ・令和元年10月より細島地区において乗合タクシーほそしまを運行している。

基礎データ

合併状況: 平成18年2月に東郷町を編入合併
 人口: 58,246人 (令和5年1月現在)
 面積: 336.89km² 過疎地域等指定: 一部過疎(旧東郷町地域)
 高齢化率: 33.5%(令和3年10月現在)
 系統数: 22系統
 運行便数: 市街地-平日5便、日祝3便
 南部ぶらっと-平日7便、日祝4便
 とうごう-週2回(月~金)4往復、
 なんぶ-週1回(火~木)4往復、
 ほそしま-週3回(月水金)4往復※補助対象外

自治体負担額: R1 16,775千円、R2 19,068千円、R3 23,025千円、R4 28,833千円
 協議会開催数: 協議会5回(R5.3開催予定含む)



計画、目標(Plan)

第2次日向市総合計画後期基本計画(4年間: R3~R6)において、「交通ネットワークの充実」を施策に掲げ、方向性を下記のとおり示している。

- ・情報発信や乗り方教室などのイベントを開催し、利用者の増加に取り組む。
- ・市民ニーズを的確に把握し、利用実態に応じた運行形態や運行経路の見直しに努める。
- ・市民バスの安全で安心な運行管理に努める。

○総合計画における目標値: 市民バス年間利用者数
 令和元年: 81,096人 ⇒ 令和6年81,100人

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

- ・生活交通確保維持改善計画に基づいて、市民バス(コミュニティバス)の運行を実施し、路線の維持・存続を図った。
- ・百歳体操や、高齢者向けスマホ教室に出向き、市民バスの紹介、体験乗車券の配布を行い利用促進を図った。
- ・住民からの要望により、新規経由地の試験運行を令和4年3月から実施し、令和4年10月からの本格運行とした。

実施状況、目標の達成(Check)

○路線別バス年度利用者目標と実績(R3年10月~R4年9月)

運行系統名 (乗合バス型)				R3実績	R4計画	R4実績	運行系統名 (デマンド型)				R3実績	R4計画	R4実績
東1コース(イオンタウン日向・櫛の山)				9,210	9,428	8,725	東郷	田野羽坂線			366	392	417
東2コース(イオンタウン日向・水ヶ浦公園・幡浦)				6,135	6,170	6,584		仲深坪谷越表線			482	458	583
西1コース(比良町・小原)				3,225	3,264	2,858		福瀬小野田線			1,204	1,200	1,326
西2コース(本谷・新財市)				4,881	5,046	3,700		仲深坪谷線			502	496	484
南1コース(比良町・向洋台)				5,926	5,984	5,991		鶴野内迫野内八重原線			828	834	921
南2コース(長江団地入口・往還)				6,101	6,154	5,996	南部	寺迫庭田線			127	106	105
北1コース(花ヶ丘・日向台・亀崎)				3,188	3,432	3,142		飯谷田の原線			151	228	70
北2コース(大王谷・梶木)				2,525	2,666	2,257		鵜毛榎木線			130	104	222
美々津日向市駅線(コース1~3) *南部ぶらっとバス				20,759	21,238	21,837	合計(人)			3,790	3,818	4,128	
合計(人)				61,950	63,382	61,090							

- ・ぶらっとバスは、R3と比較すると4.7%減の利用となった。
- ・南部ぶらっとバス(美々津日向市駅線)は、5.1%増であった。
- ・中山間地域を運行するデマンドについては、9%増であり、今後も更なる周知啓発を実施し利用促進、新規利用者獲得を図る必要がある。

今後の課題、対応(Action)

- ・市民、交通事業者、各種団体等の意見を踏まえ、実情に応じた路線やダイヤの見直しを行い、利便性の高い市民バスの運行を図る。
- ・人口減少の中、新たな利用者を増加させるため、市の広報紙やホームページ等を通じて、市民バスの周知活動を行う。
- ・引き続き、高齢者向けスマホ教室など、高齢者が集まる場所にてバスの乗り方の説明を行い、利用促進を図る。
- ・路線バスや鉄道の利用促進にも力を入れ、市民バスと一体となった地域公共交通の活性化を図っていく。